

子どもも大人も育ち合う教育支援体制づくりについて
～家庭・地域社会の教育力向上をめざして～
(岡山県社会教育委員の会議提言の概要)

前提言を踏まえた整理

社会全体で子どもを育むためには、学校、家庭、地域社会等の連携・協働という横のつながり、乳幼児期から社会人として自立するまでを見通した縦のつながりの視点に加え、子どもも大人も育ち合うという循環の視点が加わってこそ、社会全体の教育力の更なる向上につながると整理。

社会全体で子どもを育む上での現状と課題

- 1 **本県の子どもを巡る現状と課題**
 - ・地域社会の人間関係の希薄化等を背景に、家庭・地域社会の教育力が低下。
 - ・児童生徒の暴力行為や不登校をはじめ、子どもや学校を巡り、早急に取り組むべき課題が山積。
 - ・ニート、ひきこもり等自立に困難を有する子ども・若者を支援するためのネットワーク整備が必要。
 - ・これらの課題解決のために、社会全体で子どもを育む体制づくりと具体的取組の広がりが必要。
- 2 **家庭・地域社会の教育力向上へ向けた取組の現状と課題**
 - ・地域住民がボランティアとして子どもの学校での活動や、放課後・週末等における交流・体験活動等を支援したり、家庭での子育てや教育を支援したりする「おかやま子ども応援事業」等の取組が進みつつあるが、県全体の更なる広がりが必要。
 - ・地域との結びつきを大切にされた開かれた学校づくりを積極的に進めていくことが必要。
 - ・行政、教育機関、NPO等、支援する組織間の連携が不十分。
 - ・子どもや学校が抱えている切実な課題に着目し、支援のネットワークを広げることが必要。
 - ・市町村では、家庭・地域社会の教育力向上を図る専門職員である社会教育主事の配置が減少。

本研究の目的と視点

- ・本県のもつ課題を解決するために、地域社会全体で子どもを育むための基盤づくりが必要。
- ・先進県等では、地域の様々な主体がともに連携・協働して子どもを育む教育支援体制づくりが展開。こうした事例をもとに岡山型の教育支援体制の在り方を研究。
- ・本県の現状と課題を踏まえると、子どもを核にした様々な教育支援の取組をどうつないでいくか、子どもと大人が育ち合う地域社会の仕組みをどうつくるべきかという視点が必要。
- ・実際に機能するシステムの構築をめざすため、中学校区程度を範囲としたモデルを提案。

県内外の事例からみえてきたこと

(研究事例)

事 例	概 要
善通寺市子育て支援総合コーディネート事業(香川)	行政が子育て総合コーディネーター(NPOに委託)を配置し、様々な子育て支援拠点や組織を結び、子育て支援ネットワークを形成。
貝塚子育てネットワークの会(大阪)	公民館と協働しながら、子育てネットワークを形成。「乳幼児部会」「幼稚園部会」「小学生部会」「中高生部会」から成り立ち、縦のつながりの視点をもって支援。
岡山子育てネットワーク研究会(岡山)	8名の世話人がコーディネーターとなり、県内の子育てに関わる個人または団体が定期的に語り合いの場をもちながらネットワークを形成。
「協育」ネットワーク(大分)	公民館等を拠点に「協育」ネットワークを形成。学校支援活動や、放課後・休日等の体験・学習活動を中心に、家庭教育支援を含め幅広い活動を展開。
地域教育プラットフォーム(東京)	企業や大学、NPO等の様々な機関が子どもを支援するプラットフォームを整備。都内各地で多様なモデルプログラムを展開。

(整理したポイント)

- ・岡山型の教育支援体制の構築には、既存の取組をベースにし充実を図る方法が有効。
- ・乳幼児期から社会人として自立するまでを見通した縦のつながり、学校、家庭、地域社会等の連携・協働という横のつながりの視点をもつことが重要。
- ・地域の教育支援活動に関わる主体を把握し、子どもを巡る課題解決に向け連携・協働を進めるためには、それぞれの取組の成果を最大限に引き出し、つなぐ「総合コーディネーター」が必要。

子どもも大人も育ち合う岡山型の教育支援体制づくり

1 基本的な考え方

地域の様々な機関や住民等が連携・協働し、子どもの課題等の解決に一体的・総合的に取り組む地域の教育支援体制づくりを提案。

(1) 既存の取組をベースにしたネットワークづくりを

おかやま子ども応援事業など既存の学校教育支援、学校外教育支援、家庭教育支援の取組をベースにしたネットワークを構築し、地域の様々な主体の取組を有機的につないでいく。

(2) ネットワークから一体的・総合的な地域の教育支援体制へ

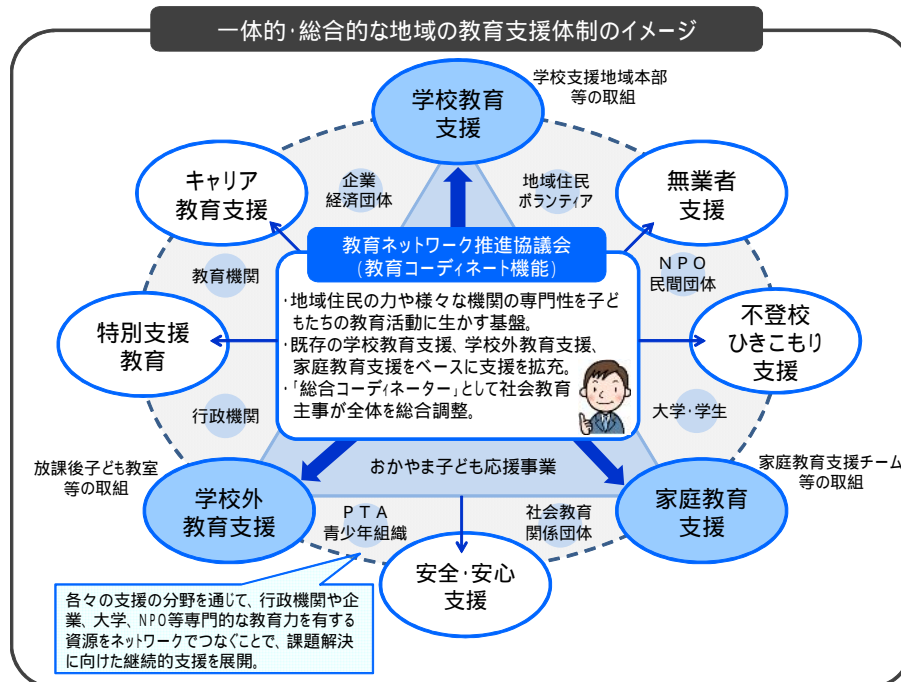
上記ネットワークの拡充を図りながら、さらに子育て支援や不登校、ひきこもり、無業者支援などの活動ともつながり、一体的・総合的な活動へ広げることにより、発達段階に応じた継続的な支援や子どもを巡る課題解決につないでいく。

(3) 子どもも大人も育ち合う教育支援体制に

地域の大人と子ども、さらに親子の関わりを意識的につくることにより、「育てる - 育てられる」という大きな循環のサイクルを促すとともに、大人同士の学び合い、高め合いの場としていく。

(4) 教育支援体制を支える総合コーディネーターの設置を

教育支援体制の核として社会教育主事を位置付け、総合コーディネートを行う。



2 推進方策

(1) 地域協働による教育の充実を推進する学校の体制整備

- ・全学校における地域ボランティアによる学校支援の仕組みの構築
- ・「地域連携担当」教職員の校務分掌への位置付け
- ・「地域連携担当」教職員を対象とした研修の実施（総合教育センターでの研修、社会教育主事講習の受講促進）

(2) 一体的・総合的な教育支援体制の構築に向けた地域の体制整備

- ・全学区における地域の教育資源をつなぐ仕組みづくりの促進（コーディネーター役の設置、ボランティア人材の発掘等）
- ・市町村における子ども（学校）を支援する仕組みをバックアップする全県的な人材バンクの設置
- ・PTAや社会教育関係団体、経済団体等による子ども（学校）支援の働きかけ
- ・子どもを支援する多様なNPOのネットワークづくり

(3) 総合コーディネーターとしての社会教育主事の配置

- ・市町村への社会教育主事配置の積極的な働きかけ（特に未配置市町村への支援策の検討）
- ・職務遂行に必要な専門知識、技能、実践力を修得するための社会教育主事講習等の充実
- ・社会教育主事講習受講促進のための支援策の検討

(4) 市町村、学校等への支援

- ・教育支援体制の先導的モデル中学校区の指定
- ・各市町村、学校等に対する教育支援体制構築へのステップの提示
- ・各市町村、学校等に対する先進事例等の情報提供、指導・助言